

## 子どものためのアンケート（1回目）結果のお知らせ

保護者の皆様にはお忙しい中、「子どものためのアンケート」にご協力いただきありがとうございます。いただいたご意見や保護者の皆様や子どもへのアンケートの結果、教職員の自己評価をふまえ、引き続き継続する取組や改善していくべきところを全教職員で共有し、保護者・地域の皆様と共に今後の錦林小学校の教育活動に生かしていきたいと考えております。大変遅くなりましたが、結果の概要をお知らせいたします。

### 【アンケート方法】

それぞれの質問の項目について、保護者・子ども・教職員の立場で回答できるようにしています。質問の文言は多少異なりますが、同じことがらについて、3者（保護者・子ども・教職員）の意識におけるずれの有無がわかるようにするためです。

【アンケート結果より】 ～紙面の都合上、全項目は掲載できませんので、ご了承ください。～

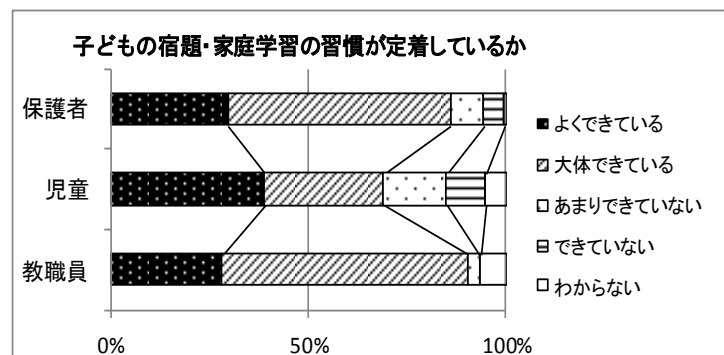
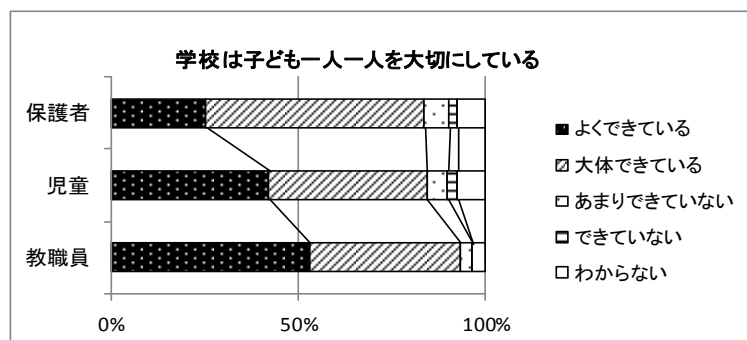
### ① 学校は子ども一人一人を大切にしているか

保護者・子ども・教職員ともに8割以上が「よくできている」「大体できている」となっています。多くの子どもたちが「自分は大切にされている存在なのだ」という安心感をもって学校生活を過ごしてくれていることが分かります。

一方で、保護者・子どもの、「あまりできていない」「できていない」の回答がそれぞれ8%～9%あり、教職員の回答と差があります。この項目は学校教育の基盤であり、要であると考えます。全体の割合から見ると少数であっても、「できていない」と感じている保護者・子どもが存在しているということを重く受け止め、常に意識して改善につなげていきたいと思います。日々の授業・休み時間・部活動など、学校生活の中のどの場面でも、一人一人がかけがえのない一人として誰からも尊重され、大切にされているという実感を伴えるよう今後もさらに取り組んでいきます。

### ⑥ 子どもの宿題・家庭学習の習慣が定着しているか

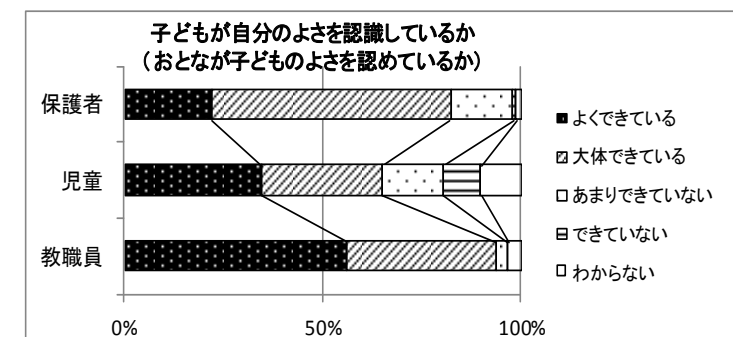
この質問に関しては、保護者・教職員ともに、「よくできている」「大体できている」と回答した割合が85%以上となっています。ご家庭で学習習慣について意識を高める取組をしていただいていることに、感謝いたします。一方で、子どもの回



答に目を向けると約70%の児童が「できている」と回答していますが、30%の子どもが「できていない」「わからない」と感じているようです。宿題・家庭学習の習慣は、小学校のみならず中学校においての学力定着を進めるためにも重要になっていきます。また、毎日の習慣づくりだけでなく、「どのような内容の学習をするか（させるか）」という点についても考えていかなければならないと考えています。教師からの課題を与えられるだけの受け身の学びではなく、学んだことを活用できるような宿題・家庭学習について学校として今後、組織的に考え、内容や時間を系統的に設定していきたいと考えています。ご家庭でも、学習の内容を把握していただくとともに、お気づきのことがありましたら担任にご連絡いただくなどのご協力をいただけますと幸いです。学校とご家庭との連携を深めることが何より大切であると考えます。

### ⑪ 子どもが 自分のよさを認識しているか（おとなが子どものよさを認めているか）

子どもと大人との認識の差が大きい結果となりました。大人は、家庭でも学校でも、一人一人のよさを認め、ほめ、励まそうとしていることが分かります。周りには認めてもらえる環境は少なからず整っているといえます。このような環境の中で他人から認めてもらえる、「自分は周りの人にとって役に立つ人間だ（＝自己有用感）」を高め、少しずつ自分に自信が持てるようにする、つまり、「自分にはよいところがある（＝自尊感情・自己肯定感）」を高めることにつなげていけると考えます。人は何かの目標を持ち、目標を達成すると「達成感」を覚えます。子どもたちが達成感を覚えるよう、学校・家庭が今後も連携し、子どもたちを温かく見守り、支えていくことで少しずつ自分のよさを確かなものとして感じられるようになるのではないのでしょうか。



### ⑭ 子どもが 将来の夢や「なりたい自分」を目指して努力しているか

昨年度から継続して学校教育目標と関連して示している目指す子どもの姿「なりたい自分を目指してがんばる子【考える・決める・実行する】」の実現度を問うている質問です。錦林小学校の児童は、何事にもまじめで勤勉に取り組む子どもがとても多いです。この質問にも85%の子どもが「できている」という回答をしています。ただし、大人の見方は十分ではないと感じている割合が高い結果となっています。将来の夢や「なりたい自分」となると、大人は具体的な姿やゴールを連想します。しかし、子どもたちにとっては果たしてそうでしょうか。自分の将来を考え、なりたい自分に向かうため、自分の課題に合わせた子どもなりの目標を設定し、その目標に向かって努力をしているのではないのでしょうか。一人一人の子どもたちが自分の夢の実現に向けて今、何を努力し、何に不安を感じているのか適切に見取り、そのがんばり（考え、決め、実行していること）を認め、支えていくことも大切だと考えます。

